

### 13. ミャンマーにおける「日本式乳癌検診」パッケージ

株式会社メディヴァ代表取締役社長 大石佳能子氏



医療産業研究会 発表  
ミャンマーにおける  
「日本式乳がん診療」パッケージ

株式会社 メディヴァ  
2013年9月

Copyright © Mediva Inc. All Rights Reserved.

メディヴァは 2000 年に始めた医療、ヘルスケア関連の専門のコンサルタント会社である。私の出産を契機に“患者も医療職ももっと幸せになるような仕組みはないか”と考え始め、その時に色々聞いて回った人の中に、鴨川の亀田病院の亀田先生達とか、後に医療法人を一緒に作った何人かの若い先生方にお会いして、その人達と一緒に何かやってみようと思ったのが始まりである。

(私の在籍していた) マッキンゼーのコンサルタントのあり方は、大きな会社に入っていって、多様なことを分析し、レポートを書き方向性を示す。大きな会社は、大体何とかできるが、病院は、レポートを書いただけでは何も直らないので、実行のところの手伝いまでやらなくてはいけないということ。そして、医療は、本当に人様の命を預かることなので、自分らでやってみて安全なものでないと提言できないので、病院の先生達と一緒に診療所をスタートし、例えば、電子カルテを使ってカルテを完全に開示した医療とか、もしくは、遠隔化で自分のカルテをインターネットで届けてもらうとか、あとは地域の病院とカルテ情報を交換するとかという、色々な実験をやって、その成果をコンサルティングに使っている。更に、病院に私が提言させてもらったことを自分らで実行のテストまでやるということで、運営支援で病院の診療の中に入っていって一緒に運営するようなスタイルの仕事を2000年からやっている。

その中で、診療所の開設だとか、病院の再生だとか、最近だと検診機関の運営だとかをやっているのだが、たまたまミャンマーに関して言うと、当社の中で、何人かの若手の人達がこれはやってみたい、是非やりたいというので、当初は、同好会的に始まり、国（経産省）の予算を頂いて、現地に行くとは是非やってほしいと結構喜ばれ、事業化となるとまだまだ先のことではあるが、確実に役に立つことができるのではないかとということで動いている活動である。



## 社内の「自主研究会」から、取り組み開始



Kanoko Oishi



Tomoko Fujiwara



Masashi Suzuki



Shino Sonoda



Taido Kitahara

ihc

Copyright © Mediva, Inc. All Rights Reserved.

2

社内の自主研究からの取り組み開始ということで、メンバーは、私を中心として藤原、園田、あとは、当社のクライアントである医療法人社団プラタナスがイーク丸の内・表参道という女性向けの検診の専門クリニックを運営しており、そこの事務長で入っている鈴木と北原と一緒に、大体この5人でやっているプロジェクトである。

事の始まりとしては、去年、私がかたま韓国に行った。韓国の医療制度は、結構日本より進んでいるところがあり、病院等もヒュンダイの病院を見に行ったが、もう何千床の病院ができていた。医師達は、結構アメリカに留学しているので、アメリカの医療を勉強して帰って来られた方が多く、保険承認も早いらしい。そのため、日本の先生方が、韓国で先に保険承認された手技を覚えるために、日本から韓国の病院に行かれて勉強して戻って来られるようになっていた。

韓国では、大きな病院の下に、テポドンがいつ飛んでくるか分からないから地下を掘って、その地下のところにデパートが入っていて、患者さんが滴台を持ってうろろろしていたり、色々な意味で驚かされた。

当社が女性向けの検診クリニックに割と力を入れている乳癌の世界でも、40歳以上の女性は、隔年に1回マンモグラフィーを受けなくては行けなく、もし健診を受けていないで癌が見つかるとう全額自費で払えという仕組みができてしまっているので、いきなりマンモグラフィーの受診率が80%というすごい受診率となっらしい。

韓国は、やることは徹底してやるところがあり、その通りにするのが良いかどうかは別の話であるが、あまりの日本との差に驚いた。



## ことのはじまり・・・

2012年初旬、大石以下数名で韓国視察に出掛ける。  
韓国の医療・ヘルスケアのあまりの進歩に、驚く。



このままでは  
日本はダメになる！  
海外に出て  
外を観なければ！  
メディアも外に  
出よう！



報告を横で聞いていた若手社員が「イイね!」「イイね!」  
と賛同☆なんとなく、リサーチ開始。

Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved.

3

やはりこのことからしても“外を勉強しないと日本は置いて行かれるな”という感覚があり、自分らが実際医療システムを海外まで広げるかどうかは別として、“海外に出なければいけない”と、少なくとも外を見ようよという感じで始まり、報告を聞いていた若手社員が賛同、日頃、自分の仕事を持っている横で課外活動として、リサーチを開始した。

ミャンマーに決まった経緯だが、まず、イーク丸の内は、検診が得意であり、亀田病院の亀田先生が当社の役員でもある。かなり密にやりとりしているが、あそこも鴨川、幕張、そして今度、京橋に検診クリニックができて、検診が非常に得意なので、まずは検診から入ろうということで、当時まだそれほど騒ぎになっていなかったころだったので、初めは中国と思った。

中国で検診をと、考え調べていたら、“国（経産省）が日本の医療丸ごと輸出で助成金事業をやるようだ”ということが分かったので、検診で助成してもらえないか聞きに行こうということになった。

当時の課長から“中国はもう皆、手を挙げているので間に合っている。”と断られ、帰ってくる途中の地下鉄で、中国で検診が駄目だったら、“乳癌だと早期に発見すれば治療も簡単だ” “治療のところももう一度考え、かつ中国ではなく、どこかほかはないか”という話になり、“ミャンマーがいい”と何となく出た。

背景としては、当社は気仙沼で復興支援をしているが、そこで、プライマリーケア学会で 3.11 の直後に医者を派遣していたコーディネーターの医者が、元々“国境なき医師団”でミャンマーに行っていた人であったので、その人からミャンマーの話をよく聞いていた。

そんなことから“ミャンマーが良いのではないか”と感じ、“ミャンマー” “ミャンマー”ということで“ミャンマー”の話が始まった。

その“ミャンマー×乳癌”というのを決めた後で、色々インターネットで調べてみると、岡山大学がずっと以前からミャンマーに医療支援を行っていたことを知った。

これは岡田先生という、今はもう名誉教授になられている病理の先生がおられ、その方が、ミャンマーにずっと医療支援をされていて、岡山大学と新潟大学がミャンマーに力を入れていた。

それで岡山大学に連絡をとり、そこから先生にコンタクトをして、“こういう話で”と言ったら、非常に興味を持って頂き、一緒にやろうと言って頂いて岡山大学と繋がりを持つこととなった。

亀田病院の亀田先生は、元々繋がりがあるのですぐ乗ってくれた。

では、“乳癌はミャンマーではどうなのか？”を調べたら、実は、乳癌の問題は、思った以上に大き

かった。ミャンマーで亡くなる方の大部分は、まず事故、あと、C型肝炎だとかそのような病気で亡くなる方が結構おられる。

癌だけで見ると、実は、結構特異的に乳癌が多く、他の国に比べても乳癌の死亡率が非常に高い国である。

その後、現地に行って先生方に伺ったら、“それは非常に高い”という認識を皆さんお持ちで、それは遺伝なのか、それとも、ミャンマーの若い人は、割と細いが揚げ物が多い食生活により40代になると真ん丸くなるので、やはり太っていることと乳癌には相関関係があるので、そういう話なのか、ちょっとよく分からないということであった。

あともう一つの説は、仏教徒で尼さんが多いこと。生涯独身の女性が結構多いらしく、その結果、独身で出産しないことで乳癌のリスクが高まる。そういう理由なのかということである。

坊さん、尼さん専門の病院というのがあるらしく、そこに行くと乳癌だらけだと現地の人が教えてくれたりした。

何かその理由は分からないが、非常に乳癌は多いらしく、ミャンマーとしても何とかしたい病気だということが分かったので、であればこのプロジェクトがやれるのではないかとということで、関係書類を整えて国（経産省）から助成を頂き、調査事業ということで調査を始めた。

その後、2回ミャンマーに行った。

まず、ミャンマーには当社の人間が行ったことがなかったので、ミャンマーはどのようなところかを見に行くのと、病院を見に行き、このような事業を始めるには、政府の上（高官）の人を通さないと何も始まらないので、上（高官）の人に会いに行った。

後で写真が出てくるが、幾つか国立病院がある。そのようなところに例えば外国人がふらっと見に行くことにも許可が要る。

普通病院だと売店があるが、ミャンマーでは、病院の売店は、病院の前の路面にある。

周りに屋台のように売店が沢山建っていて、病院の中の廊下では、寝ている人も居るし、どこからどこまで病院で、どこから道なのかがよく分からないような状態のところであったが、外国人は入ってはいけない。

何かそういう感じで非常に厳しいところがあり、何をしたかということ、一番初めの10月に行ったときには、やはり上（高官）の人達に渡りを付けないと何も始まらないので、そのトップの人たちのできるだけ偉い人に会いに行くことと、そのような実態調査ということで1回目は行った。

2回目は、招かれて1月にミャンマーの保健省の中に調査部みたいなものがあり、いろんな学術調査をやっているところで、そこが年に1回大きな学会をやるので、その学会で日本式乳癌検診と治療についての発表をしてきた。そのときは、私どもだけではなく、岡山大学から乳癌系の教授の先生2人と、あと亀田病院の戸崎先生という放射線科の先生が講師をしてくれ、皆で発表した。



ミャンマーは親日感情が高く、ASEAN最貧国だが、実は教育レベルの高い豊かな国



Copyright © Media Inc. All Rights Reserved.

ミャンマーは、非常に親日感情の良い国である。

一応 ASEAN の最貧国だと言われているが、最貧国と言うと、イメージ的には物乞いがそこら辺に居るとか、非常に衛生状態が悪いとか、スラムがあるとかというイメージであるが、全くそのようなこともなく、道もこのような感じで普通にきれいだった。

“きちんと考えて物を造っているのだな” というのは、例えば、ベトナムに行くと皆バイクに乗っていたり、中国では、自転車に乗っていたりして、道がぐちゃぐちゃになっていたりするが、ヤンゴン市内の真ん中では、バイク、自転車が禁止となっている。バスはあり統制が取れていた。だから基本、車と歩行者しか居ないのである。

最近だと、“10年以上古い車は走らせてはいけない” という法律ができていて、“走らせていけない” というのは税金が高くなってしまいうことである。

10年より若い車やもうちょっと新しい車は、関税を安くしている。中古車が日本を含めて海外から入ってくるのだが、その中古車も割と新しい中古車が入っている。

アメリカとかへ行くと、いきなりバンパーが落ちる車が走っていたりするが、そういうのに比べてもよほどきれいであり、新しいことで排気ガスもそれほど出さないし、非常に良い感じの国であった。

結構驚いたのは、岡田先生はもう 10 何年、半年ごとぐらいに行かれていて、行く度にどんどん街が新しくなっていくと言われていた。私らは、10 月のあと、また 1 月に行ったが、携帯電話を持っている人が増えているとか、そこら辺の WiFi が繋がりがやすくなっているとか、進化が目に見て取れるというような感じの国であった。

ミャンマーは、最貧国と言いつつ意外と裕福である。

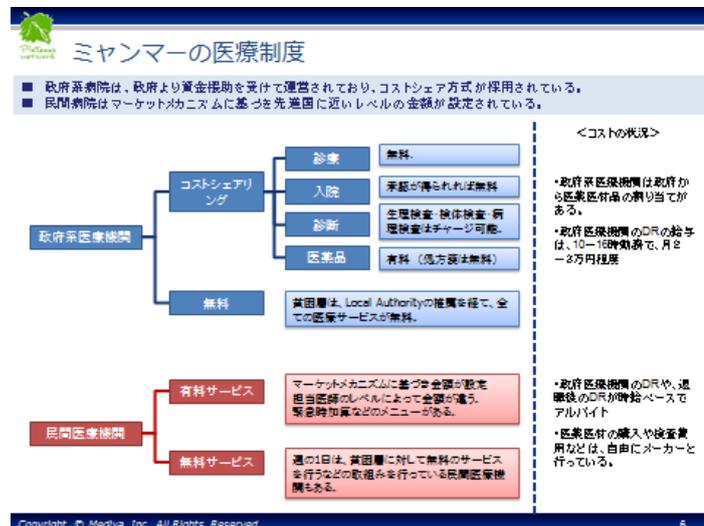
例えば、医者は、基本的に国家公務員である。全員ヤンゴン総合病院とか、いろいろなところに勤めているが、そこではせいぜい月給 1 万円とか、数万円ぐらいである。だが、勤務時間が 4 時で終わり、4 時から先はアルバイト OK で、中国系だとかシンガポール系の民間病院に勤め、そこから、そこそこの収入を得ているという。だから、最貧国ではあるが、きっとそうではないかなという感じである。

そして、非常に教育レベルは高い国で、一番驚いたのは英語を結構話す。ドクターは当然話すし、ナースも話す、技師も話すし、たまたま私が医師会に行ったとき、日本から救急車が寄付されていて、“この救急車は、今日動いたか？” と一緒に同行した人が聞いたりすると、多分あれは救命救急士ではなく救急車の運転手だと思うが、彼が、ブロークンではあるが英語できちんと返事をする。だから、特に医

療に関して言うと、やはり英語ができるかできないかで非常に差がある。医者たちは皆インターネットで非常に勉強しており、本当に実践できているかどうかという話で言うと、最先端の薬は入らないし、機材は患者が市場に行って買ってくるような感じであるから、最先端の機材は多分使えていないが、少なくとも知識は豊富である。皆非常に親切だった。夜中ぶらぶらしても危なくなく良い国だった。



当然のことながら、仏教国で至るところにこういう寺があり、この金箔（きんぱく）のようなものは、皆寄進して、このようなものを買って張り替えをする。こういう金箔（きんぱく）張り替えができるだけの寄進ができるというのも、そこそこの所得があるという感じであった。こうやって市民の方の屋台が出ていて、ちょっと私も怖くて屋台では食べなかったが、それほど驚くような感じではなかった。



ミャンマーの医療制度だが、基本的に保険制度がまだない。ヤンゴン総合病院や政府系の病院に関して言うと、基本は、以前、企業立の病院で、従業員はそこに行くとしたようなものがあったのではないかと思います。

それと同じで特に貧困層に関して言うと、すべての医療サービスは基本ただである。診察は無料で承認が得られれば入院も無料であるが、医薬品とか機材は、金を払わなくてはいけない。従って、処方箋を切るころまでは無料であるが、院内に薬局のようなものが入っていて、それは多分病院の経営だと思いが、そこで金を出して払うという形である。もしくは機材とか薬を、先ほどのこの延長上でマーケ

ットがあるが、そのマーケットに行って購入してくるという感じだった。

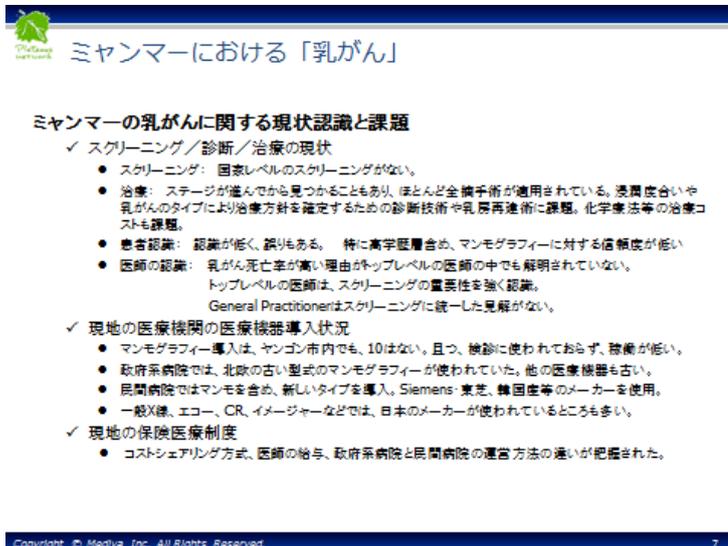
では、全部が政府系の病院かというところではなく、民間の医療機関もあり、ここは基本全額自費である。多分自由に価格を設定しているという感じである。割と混んでいた。ただ、そういう民間病院、民間の医療機関も、仏教の延長上らしいが週に1日は貧困層のために無料サービスデーというのがあり、そこで無料で診察を行っているところも結構あるという感じである。

民と官の比率は、ヤンゴンとか、市中は民間が入っているが、多分地方に行くと殆ど政府系だと思う。民間医療機関は、病院もあれば、診療所のような、検診機関のようなものがあったり、外来系の専門クリニックのようなものもあったりするが、数えるほどである。現地資本もあるが、現地資本でもバックは、実はシンガポールだとか、タイの資本だとかであり、国が基本鎖国をしていたことからそれほどまだない。

ヘルスケアシステムのベースはイギリスかもしれない。原則ただだと言ったが、ただ、イギリスのことはそれほど好きではなく社会主義なのではないかと思う。イギリスも、たしか税方式である。ベースがただだということ。だから、そういった意味では、税金か何かで政府の予算としてあったものの中から、政府系医療機関では、政府から医薬器材品なども割り当て制のような感じで来ているので、そういう点で一部。ただ、いずれにしても、全体的にそこら辺の制度がまだ未熟な感じがした。

薬は、基本全部ジェネリックでインドから入って来ているという感じである。

インターネットの知識を持っているオンコロジーのドクターに話を聞くと、一番難しいのは、治療の内容ではなく、そういう薬の代金も払えない人も居て、例えば本当に払えない物を処方してしまったりすると、家屋敷から何から全部売って金を作らなくてはいけなくなったりするので、この人はどれだけ金を払えるかを考えてあげて、この人は金がないと思ったら代替医療のようなものを勧める、その見極めが難しいと言っていた。



**Myanmar Breast Cancer**

### ミャンマーにおける「乳がん」

#### ミャンマーの乳がんに関する現状認識と課題

- ✓ スクリーニング／診断／治療の現状
  - スクリーニング： 国家レベルのスクリーニングがない。
  - 治療： ステージが進んでから見つかることもあり、ほとんど全摘手術が適用されている。浸潤度合いや乳がんのタイプにより治療方針を確定するための診断技術や乳房再建術に課題。化学療法等の治療コストも課題。
  - 患者認識： 認識が低く、誤りもある。特に高学歴層を含め、マンモグラフィに対する信頼度が低い
  - 医師の認識： 乳がん死亡率が高い理由がトップレベルの医師の中でも説明されていない。トップレベルの医師は、スクリーニングの重要性を強く認識。General Practitionerはスクリーニングに統一した見解がない。
- ✓ 現地の医療機関の医療機器導入状況
  - マンモグラフィ導入は、ヤンゴン市内でも、10はない。且つ、検診に使われておらず、稼働が低い。
  - 政府系病院では、北欧の古い型式のマンモグラフィが使われていた。他の医療機器も古い。
  - 民間病院ではマンモを含め、新しいタイプを導入。Siemens・東芝・韓国産等のメーカーを使用。
  - 一般X線、エコー、CR、イメージャーなどでは、日本のメーカーが使われているところも多い。
- ✓ 現地の保険医療制度
  - コストシェアリング方式、医師の給与、政府系病院と民間病院の運営方法の違いが把握された。

Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved. 7

乳癌に関しては、ここは細かく書いてあるが概要で言うと、まずスクリーニング／診断／治療の現状で言うと、スクリーニング、検診については、そもそも殆ど検診という概念がないし、スクリーニングは国家レベルではない。

ただ、触ってみて何かしこりがあるかどうかを自己チェックしようというのは、MMCWAという殆ど政府組織と言っている女性と子供の福祉に関するNPOが力を入れて普及させた結果、あちこちに自己スクリーニングをやろうと書いた紙が張っており、結構そこは普及しているようである。だから、乳

癌が怖いとか、しこりがあるって乳癌かもというのは分かっているが、自分で分かるくらいの大きさになってしまうと本当に全摘しかない。その前のところで“何とかしなくては”という意識は、国の偉い人の中にはあるということである。ステージが進んでから見つかるので結果として殆どが全摘である。細かい病理診断が、基本、技術的にまだできていないのか、どこまで浸潤しているかもあまりまだ分からないので、とりあえず見つかったら切ってしまうという感じである。

患者の認識としては、認識が低く誤りもあると申し上げているが、誤りのレベルとしては、やはり代替医療は、軟膏を塗っておけば治るような感じで信じている人も結構まだ居るらしい。

マンモグラフィーを使ったスクリーニングに関しては、マンモグラフィーは、多分ないと思って行ったが実は入っていた。

ヤンゴン総合病院などはマンモグラフィーの機器があったし、幾つかの病院にも幾つかあったが、まず機材が古くて、多分技師の腕がよくなく、読影の腕もよろしくない結果、マンモグラフィーは痛くて、かつ何も写らなく、結果分からないので役に立たないという認識のようである。

だから、例えばイク丸の内で米粒の半分ぐらいの大きさの乳癌を見つけることは可能であると、日本だったら、ちょっと精度が高いとそのくらいは当然見つかるというようなことを言うと、皆、“ウハハハと、この機械でそのようなことがわかるのか”と、医者も含めて皆言っている。本当にほこりをかぶっていて、かつ大体ODAで入ったので、メンテナンスもされてなく、駄目になるというような感じであった。

医者への認識としては、関心は非常に高い。ただ、スクリーニングに関しては、トップレベルの医者たちが重要性を認識しているが、医師会の先生方は、まだあまり理解されてなく、いろいろ説明すると、“あ、そうなのか”という感じである。

機器導入に関しては、マンモグラフィーの導入は、ヤンゴン市内でも 10 はないと申しあげたほうがよい。私は、10 個もあったというのでビックリという感じであるが、割と古い物という感じであった。

マンモグラフィーは、フィンランドの物とか北欧の物が結構入っていて、X線とか、エコーとかは、これはODAで入っている物だと思うが、日本の物も入っていたという感じである。

 2012年度秋 訪問先リスト

カテゴリ	組織	タイトル	名前	訪問日
政府	保健省	大臣 (Union Minister)	Dr Pe Thei Khin	10月3日
	保健省 Department of Research	Acting Director General	Dr Myo Khin	10月1日~ 10月4日
	Myanmar Maternal and Child Welfare Association	President	Dr Mon Mon Aung (保健省大臣の妻)	10月3日
政府系病院	Yangon General Hospital	院長 (Medical Superintendent)	Dr Kyaw Kyaw	10月4日
	Central Women Hospital	院長 (Medical Superintendent)	Dr Tin Nyo Nyo Latt	10月4日
医師会	Myanmar Medical Association	President	Prof Kyaw Myint Naing	10月1日
民間医療機関	Shwe Gon Dine Hospital	General Manager	Dr Saint Shin Soe	10月2日
	LEO medicare (24時間対応クリニック)	Deputy Chief Medical Officer	Dr Khine Soe	10月2日
	MOOC (がん治療専門家クリニック)	Medical Officer	Dr Wanna Kyaw	10月2日
	NI NI Diagnostics & Health Care(ハイエンド検診センター)	Director	Dr Khin Phone Kyi	10月1日
	医療機器現地代理店	Okkar Thiri Company Limited	Chairman	Dr Sen Sen Yi
その他	日本大使館、日本在住18年のミャンマー人医師等			

Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved. 8

秋、10月に行って一番初めに様子を見に行ったが、結果としてそのときに会えた方々のリストがこれ

になる。これから先の活動の決め手になったのは、保健省の大臣の方に会えた。話ができた時間は全部合わせても1時間弱ではあったが、非常に関心を抱いて頂いた。何でそこにたどり着けたかというのと、一つは、ずっとミャンマーを支援されていた岡山大学の伝手と、あともう一つは、マッキンゼーの伝手で名古屋大学医学部が東南アジアの若手官僚の方を呼んで、制度等も含めて総合的に日本の医療を勉強するというのをずっとやっておられて、ミャンマーの若手官僚の方も結構来られていて、その人がいろいろ動いてくれたからである。そのお蔭もあって、ミャンマーの大臣にも会うことができた。

保健省の中に、調査部のようなものがあり、そこで学術調査、リサーチ部隊というのがある。そのこのトップの方にも非常にご協力を頂いた。

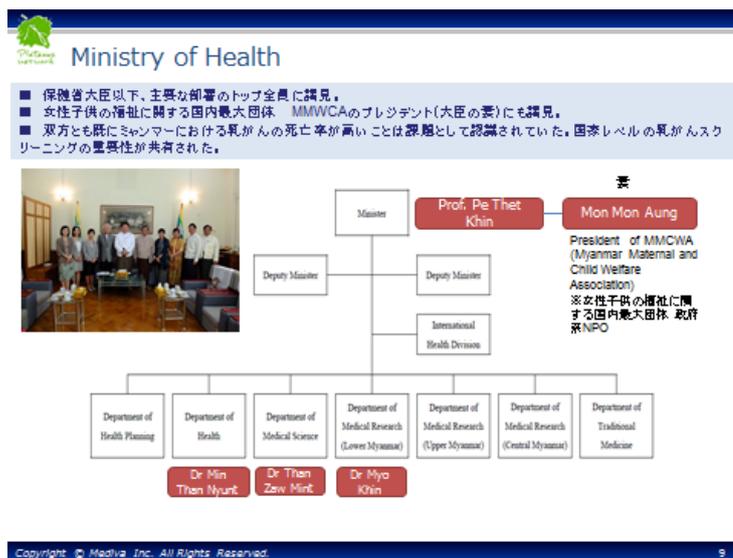
それから、その次の Myanmar Maternal and Child Welfare Association という、保健大臣の奥様（この人も医者である）が、非常に力を持っている NPO を運営されており、この Mon Mon Aung さんという方にもお会いできたのである。

病院に関しては、ヤンゴン市内にある Yangon General Hospital という国の最大の病院に行った。

更に Central Women Hospital。これはどちらかというとお産と婦人科をやる病院であるが、ここを訪問して病院長とか、放射線のドクターに会った。

現地に日立の代理店があり、医者が経営されている民間病院、4カ所ぐらいに行った。

また、大使館だとか、日本在住のミャンマー人の先生とかに会ったり、そういうところを中心に行ってきたところである。



これは保健省の組織図である。リサーチ部隊というのは、ここの下に名前が書いてあり、この担当にお会い頂いた。

ミャンマーは、実はずっとヤンゴンが首都だったが、ミャンマーは細長い国である。

首都を真ん中あたりのネピドーに突然遷都した。一応遷都したが何もない。電車があることはあるが、非常にゆっくりで、自転車より遅いのではないかとぐらいのスピードで走る電車である。仕方がないので、片側2車線ぐらいの感じの高速道路もあるのだが、横に塀もないので、たまに牛だとか、犬だとか、子供だとか、自転車だとかが横切ったりするようなところを、車をダーッと5時間ぐらいひたすら飛ばし、たまに橋が落ちていて、そこに突っ込んだ日本人がこの間亡くなったような事故があるところを、ひたすら5時間、百何十キロで飛ばして、ようやくそのネピドーに着いた。

**MMCWA**

- 女性子供の福祉に関する国内最大団体、1400万人のボランティアを抱え、草の根の活動を行っている。
- 付属のMMCWAクリニックでは、周産期及び女性医療、各種検診を行っている。
- 日本のマンモグラフィーを使った検診の精度は驚きをもって受け止められた。啓蒙活動における協力の可能性あり

名称	MMCWA Clinic
医療	100名中専任の女性専門のクリニック
設立	2009年10月
特徴	MMCWA会員のクリニック、マンモグラフィ、超音波、骨密度測定器、子宮がん検診、産後の子供の基本検診、ヘルスエデュケーションを行う。
マンモグラフィ	あり
超音波	超音波の超音波一階に専用機
検査機	一般検診、骨密度、マンモグラフィ、超音波エコー、エコー
その他の検査機	
近隣の関連施設	検診棟では、産後検診は定期的に行っている。






Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved. 10

保健大臣とかはネピドーにおられて、このMMCWAというのも、もともとヤンゴンにあったのがネピドーに移り、MMCWA Office と書いてあるが、平たいところに突然こつぜんとちょっと立派系の建物がボコンボコンと建っている。だが、すごい勢いの建設ラッシュで、東南アジアなので、インドなどもそうであるが、竹を組んで物が建っているという。

そのような感じのところに行って大臣にお会いし、このMMCWAに行って、このMMCWAというのは、ここにも書いてあるが、1,400万人のボランティアを抱えている草の根の女性の衛生とか病気に対する知識とかを広めている団体で、割と周産期を中心に動いている。MMCWAに付属して、ちょっと診療所みたいなものがついていて、そこにX線だとか、骨密度測定器だとか、マンモグラフィーだとかもあるのであるが、周りに殆ど町がないので、出産している人は2人しか居なくて、両方ともそこら辺の建設労働者の奥さんというか、労働者の人の嫁さんのような感じであった。

**MMA (医師会)**

- General Practitioner 1700名を擁する団体。
- 特定の人だけに利するのではなく、Public全体の医療を考えたスクリーニングの普及に協力したいとの申し出あり
- General Practitionerについては、乳がん検診に関する認識が決して高くない医師もいることを認識しており、医師に対する教育の必要性を感じている。

名称	Myanmar Medical Association
医療	医師会
設立	1949年
URL	<a href="http://www.myanmarmedical.org/index.html">http://www.myanmarmedical.org/index.html</a>
特徴	General Practitionerの団体 医療従事者の上、社会 福祉活動に力を入れている。保健事業 活動している。総会委員 1500名程度
診療科目	「マンモ」に超音波のスクリーニングシステムはない、手術が中心。 「マンモ」に超音波のスクリーニングシステムはない、手術が中心。 「マンモ」に超音波のスクリーニングシステムはない、手術が中心。
近隣の関連施設	「GPI」の関心は高まっているが、マンモグラフィの普及に力を入れている。保健事業活動している。保健事業活動している。保健事業活動している。
その他の検査機	「社会が重要、MMAは、GPIを推進してスクリーニングの普及を促している。保健事業活動している。保健事業活動している。保健事業活動している。」 MMAは、GPIを推進してスクリーニングの普及を促している。保健事業活動している。保健事業活動している。保健事業活動している。





Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved. 11

MMA (医師会) である。GPは1,700名くらいだと思うが、そこら辺は少し分からなかったが、非常に熱心に医師会活動をやっている、特にパブリックヘルスに力を入れている人たちで、プレジデントは真ん中に立っている人で、左横に居る人がミャンマー人の医者で、一番左側に居るミャンマー人っぽい人は、復興支援を一生懸命やっている林先生という日本人の医者である。この写真に写っていない医者が出て来て、ぜひ一緒にやろうと言ってくれた。ちなみに下に描いてある救急車が、日本から寄付

された救急車である。

**Yangon General Hospital**

■ ミャンマー最大の病院。 乳がん対応の放射線治療器は全国でここだけで、年間900名以上の乳がん患者に対応  
 ■ 乳がんのナショナルスクリーニングの重要性を認識、パイロットのパートナー候補。

名称	Yangon General Hospital 政府系病院 1500床 (ミャンマー最大規模)
設立	1899年
科系	3つの内科系科、3つの外科系科、16つの外来、放射線科、24の専門科で構成 平均在院日数 22日 手術稼働率 72.9%
マンモグラフィ	マンモグラフィ稼働状況 5名 / 週
医師体制	医師 294名、Radiation Oncologist 12名 Medical Oncologist 8名
患者数	政府系のため一般に門戸開放
患者数	1200人 / 日
乳がん関連の取組	・乳がん治療を行っている、乳がん対応の放射線治療器がミャンマー全国にはないため、全国から乳がん患者が来る ・2011年の乳がん患者数は、がん患者のトップ数の13人
乳がんに対する考え方	・見つかるステージが早期がんだが、IIのII、IIIの患者の割合も必要、癌の悪化を防ぐため、がんの悪化を防ぐため、手術で治せる多くのステージがわかる155人。 ・ミャンマーで乳がんが多いのは、遺伝要因が原因と考えられている。
その他情報	・WHOでは、1982年からCancer Control Programが実施されている。 ・11月1日にCANCER国際が実施されることに伴って乳がんのスクリーニングに関するカンファレンス

Hospital Outside



Sophie Mammogram (Finland)



Inside Hospital (dog walking)



Cancer Outpatient Lobby



Toshiba Ultra Sound (Nemio)

<No Image>

Copyright © Mediva, Inc. All Rights Reserved. 12

Yangon General Hospital、左上にある赤いレンガの建物である。植民地時代から建っている 1,500床の病院であるが、設立は1899年であるからかなり昔の物である。

中は、まず右下を見てわかる通り、患者さんで非常にごった返していて、日本の病院もそうであるが、建て増ししたせいか、棟が幾つもあり、その間は普通に庭のような感じで犬がうろうろしているし、人もうろうろしているし、周りの売店の物売りもうろうろしている。

病室は、何十人部屋か、40床室のようなものがあったり、60床ぐらいのものがあって、見渡す限り野戦病院のような感じである。私などは分からないが、日本の医者と一緒にいくと、先生たちは、「これは日本ではもう診られない症例だ！」とか言って結構色めき立っているというのは、やはり悪化してから見つかるので、かなりシビアな症例の方が結構たくさんいた。基本的に入院費はただである。マンモグラフィーに関していうと、フィンランド製のSophieのマンモグラフィーがほこりをかぶっていた。

**院長、放射線科、オンコロジーのトップにがんの事情をヒアリング**








Copyright © Mediva, Inc. All Rights Reserved. 13

ここで、オンコロジーのトップの方も、病院長の先生も全員出てきてくれていろいろ話をし、放射線科のトップの先生だと思うが、「日本人はよく見学に来るが、一度として何事も起こったことはない、今度は何かあるのか？」と、ちょっと嫌みを言われた。

どうしてほこりをかぶっているのかというと、基本使ってはいない。拭くぐらいはしていると思うが、これもODAだと思う。

超音波は使っていた。マンモグラフィーの方は、スクリーニングでは基本使わなくて、診断のためだけに、手術で一回使うようである。

悪循環があって、スクリーニングのためには役に立たない。見つかる癌が大きいから、マンモグラフィーを掛けなくても誰でも、患者でも乳癌と分かるのだから、医者は当然分かる。東芝の超音波は別に乳癌に使っているわけではない。先ほどのMMC AWでも入っていたが、普通に妊婦を診るとかにしか使われていない。

**Central Women's Hospital**

- 800床の女性専門病院。
- 乳がん治療は対象としていないが、年間2500名の子宮がん検診を行う。

名称	Central Women's Hospital
通称	中央女性病院 (英語:Central Women's Hospital)
設立	1897年
種別	非営利団体と、株式会社による。非営利団体は、乳がん治療は行わない。
マンモグラフィー	なし
超音波診断	超音波診断、超音波診断装置
放射線科	放射線科
検査室	検査室
検査数	検査数
乳がん検診の状況	検診では、下着をはき替えるが、乳がん検診は、検診室で行われている。
乳がんに対する考え方	乳がんのスクリーニングに関する情報は、検診室で提供されている。検診室では、検診を受ける患者は、検診室で検診を受ける。検診室では、検診を受ける患者は、検診室で検診を受ける。

Hospital Outside

Chison Ultra Sound (China?)

Shimazu X-ray (donated by JICA)

Copyright © Mediva, Inc. All Rights Reserved. 14

これが、今度パイロットサイトになる Central Women's Hospital という 800 床の女性専門病院で、ここもやはり非常に古い建物で、1897 年イギリス植民地時代のものである。

基本的には周産期を中心としているので妊婦も多く、病気というよりは、もうちょっと明るい雰囲気だった。

中国製かと思われる超音波と、JICAのODAで入った島津のX線カメラがあった。これはまあまあ使われている感じだった。何回か行ったが、稼働しているところはあまり見なかった。あまりきれいに使われていないので、しっかりメンテ等はされていない感じだった。患者が居るのに稼働していないのは、やはり異常である。多分、婦人科で、特に妊婦を診ている世界の中で、レントゲンの出番はそれほどすばらしく良さはないので、何でここに入れたのかも不思議であった。



Leo Medicare / MCOC

■ Yangon市内にある24時間体制の民間クリニック。 抗がん剤治療の外來センターを併設。  
 ■ 病理部門責任者はヤンゴン医科大学教授で、乳がんスクリーニングに対する意識が高い。

名称	Leo Medicare / MCOC
診療	民間のクリニック (24時間体制)
URL	N/A
所在地	Aksa Royal, Yildirim 華大 国際病院 2階 2階 北東角の診察室付 100%ビルドアップ
マンモグラフィ	有
マンモグラフィ設備状況	有 (1台) / 有 (1台) (2台) (3台)
超音波	有 (1台) / 有 (1台) (2台) (3台)
検査室	有 (10-12名) / 有 (10-12名) / 有 (10-12名)
その他検査設備	有 (10-12名) / 有 (10-12名) / 有 (10-12名)
マンモグラフィの設備	併設のMCOC (Myanmar Center of Oncotherapy) で、マンモグラフィ専用室を有している。マンモグラフィ専用室は、マンモグラフィ専用室で、120%。
マンモグラフィの検査室	マンモグラフィ専用室 (Konica) 有 マンモグラフィ専用室 (Konica) 有 マンモグラフィ専用室 (Konica) 有
マンモグラフィの検査室	マンモグラフィ専用室 (Konica) 有 マンモグラフィ専用室 (Konica) 有 マンモグラフィ専用室 (Konica) 有
その他設備	マンモグラフィ専用室 (Konica) 有 マンモグラフィ専用室 (Konica) 有 マンモグラフィ専用室 (Konica) 有



Outpatient Lobby



Toshiba Mammogram



Toshiba Ultra Sound (Style)



Konica Minolta DR & Imager

Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved. 17

これはヤンゴン市内にある 24 時間体制で運営されている民間クリニックである。

メインは検診的なことを少しやっているのと、もう一つは、外来ケモ（外来化学療法）をやっているところで、調剤室とか、抗癌剤の調剤を中でやるようなラボのようなものを持っている。ここはT社のマンモグラフィーが入っていた。T社の超音波も入っていた。ここで聞いた話では、最近企業検診のような、企業の従業員全員ではないと思うが、企業人相手の検診を、企業丸ごと請け負うことがあると聞いたので、そのようなことも始まっているのかという感じである。

民間はミャンマー資本と書いてあるが、資本といっても、やはり出している人は、医者である。ここは保健省の前々局長が退官後にやっている。多分イメージとしては、ミニチュア財閥ではないかと思う。パンラインという、ちょっと郊外にある病院は、ピカピカの病院みたいで、医者が一応運営をしているが、その人が多分、雇われの場合もあり、どちらかという、もともとある程度裕福な階級の人達が医者になり、自分のファミリー財産を出し、一族というかミニ財閥でも出し、かつ、どこかと資本提携している。

だから、日本のように完全な勤務医で、全く金も出せない、政府も貸し出さないという感じではなかった。事業としてやっている。

日本にずっと留学されて、日本の医師免許はないが、今度向こうで開業されるという方がおられて、話を聞いたが、完全に事業としてやるという感じで、ここまで患者が増えたら、次、こういう拡大プランでということ、いろいろ考えておられた。

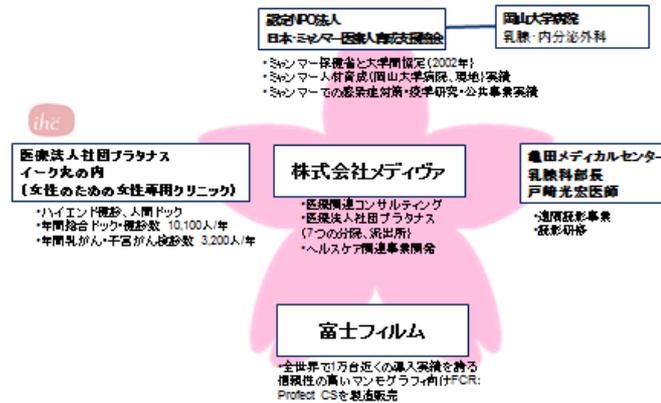


- ミャンマー国内の外科、腫瘍内科医師等、100名近くが参加
- 国営放送の取材も受け、注目度が高さがうかがえた

保健省のリサーチ部門で、この向こう側におられる方はドクターであるが、この方とも会って、その関連で、ミャンマー医学会総会が1月にあり、そこで話をさせて頂いた。私が日本の医療制度と、あとは検診の仕組み、特に乳癌の検診が何で最近非常に重要だと言われているかというような話をさせてもらって、岡山大学の土井原先生という方が乳癌の治療について話されて、もう一人、亀田病院の戸崎先生が放射線科の話をされた。ミャンマー国内の多分100名近くの方がワーツと入って、立ち見が出るような感じで、国営放送の取材が入り、乳癌について非常に注目が高いことが分かった。ここまでが去年の調査事業費で行われたものである。



## ミャンマー 乳がんコンソーシアム



Copyright © Mediva, Inc. All Rights Reserved.

20

これを受けて、今年、実証事業をやらせて頂くが、コンソーシアムを組んで、私どもと姉妹法人の医療法人プラタナスのイーク丸の内という女性向けのクリニックと、岡山大学の岡田先生がつくられたNPO、亀田病院と、ここにメーカーを入れた。

結論から申し上げるが、残念ながら日本のメーカーはあまり動きが良くなかった。

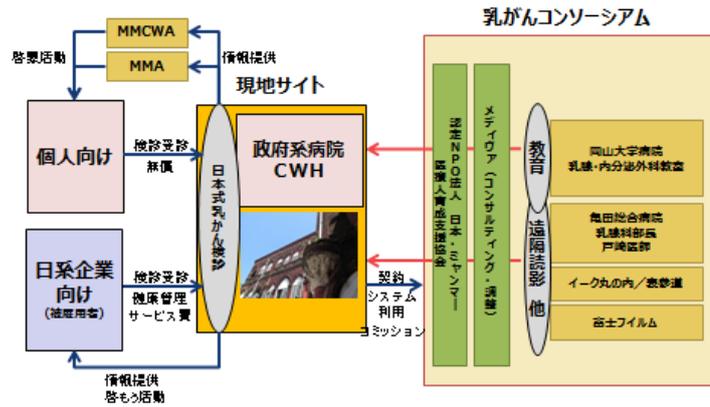
今回、はじめはデジタルマンモグラフィーの導入を検討したが、デジタルは繊細で、湿度が上がり過ぎたり、暑すぎたりすると駄目になってしまう。常時、電気を通してはいけないのでミャンマーの電気の不安定さだと駄目である。そこで、アナログマンモグラフィーにアナログデータをデジタル化する機器を組み合わせることとなった。

結果としてアナログをデジタル化するところにF社に入ってもらったという形になった。F社は、初めから非常にやる気があり、1月のときにも同行してくれて、社内の中でも動いてくれたが、F社はアナログマンモグラフィーを造っていない。マンモグラフィーがあったときに、それをアナログからデジタルにしてストレージする、FCRのところはF社である。マンモグラフィー自体は、国内メーカーで良い条件で提供してもらえるところが残念ながら見つからず、イタリア製の物がはいっている。

ところで、現地の医療代理店事情だが、国内メーカーはタイとかシンガポールでは、既に市場を他のSiemensとかGEに取られてしまっている。ミャンマーでも、特にキーとなるメンテナンスができる人達の引き抜き合戦で負けており、あるメーカーは、GEに1人を残して全員引き抜かれたとか。結局、大きい国はもうほかの外資メーカーに取られているのに、小さいところを後回しにし、後回しにしている間に、これも外資にさらわれてというような感じになっているのが現実。日本のメーカーは、タイとかシンガポールのような大きい国を先に狙おうということで、ミャンマーを後回しにしているが、このやり方で海外と戦っていけるのかは疑問だ。



平成25年度 実証事業スキーム図



Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved.

21

スキーム図としては、子供と女性向けの Central Women's Hospital にマンモグラフィーを据え付けて、保健省の大臣の奥さんがやられている NPO と医師会と一緒に啓蒙活動を実施、個人の検診費は、啓蒙ということで今年は無料としてもらう。あとは、健康診断の有料の部分で、日系企業を中心に、マンモグラフィーと血液検査なども含めた定期検診のような感じのものをセットにして、これを実験的にやってみようという形になっている。



来日予定の研修者プロフィール



**Dr Hla Hla Myaing**  
Associate Professor/ Senior Consultant Radiologist  
Department of Radiology  
Central Women Hospital, Yangon



**Dr Kyawt Khin**  
Senior Consultant Radiologist  
Department of Imaging  
Central Women Hospital, Yangon



**Ms Mya Thandar San**  
Medical Imaging Technician  
Medical Imaging Department  
Central Women Hospital, Yangon

Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved.

25

あとはミャンマーの先生方に実際に勉強してもらわなくてはいけないので、日本に来てもらう予定になっているが、来てもらう方の写真がもうちょっと後のところにあるが、こういうドクターである。

Associate Professor/ Senior Consultant Radiologist と結構それなりの肩書が付いている、それなりの方が来る予定になっており、この人達の研修・教育を岡山大学中心に、一部を亀田病院で受け入れてもらう予定である。

### 乳がんコンソの付加価値

通信画像診断 指導

アナログマンモグラフィ

マンモグラフィ専用読像コントロールパネル

カセットMP

アナログマンモグラフィ専用読像コントロールパネル MAMMO SCENT AW 8-0 FOR PROPECT 08

このパネルは、将来的には、ミャンマーに導入するアナログマンモグラフィにも活用可能。今後、迅速に展開される。

乳がんコンソ-ラームは、

- マンモグラフィ装置による通信画像診断と指導
- 最先端の乳がん検診・治療技術研修
- FORによるアナログマンモグラフィのデジタル化

をミャンマーに提供します。

Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved. 22

実際、読影するのをダブル読影しようと思っており、要はミャンマーで一回読んで、日本でも読んで答え合わせをする。

答え合わせをして当たっていたらよいが、外れたらもう一回繰り返すという感じで実施しようと思っている。その遠隔読影のようなところを亀田病院でやってもらうことになっている。

“本当に乳癌が見つかった後をどうするか”とか、“生検をどうするか”というところも年内にある程度入れ込もうとしているので、そこをどうするか現在検討中である。

### 平成25年度 スケジュール

研修事業 : 9月17日 - 11月22日

MMCWA・医師会Japanトリップ 10月中旬 (調整中)

実証事業キックオフ: 12月2日

実証事業第一フェーズ(200名): 12月2日~27日

ミャンマー保健省学会発表 1月6~10日

		Aug			Sep			Oct			Nov			Dec			Jan			Feb			
		1st	2nd	3rd																			
ITFC	Agreement																						
	Signatures																						
	Start-up ITFC																						
Training	Training in Japan																						
	Training in Yangon																						
	Participant Gathering																						
Trial	Participant Gathering																						
	Subject and Installation																						
	Trial																						
Awareness Campaign	Roll out element																						
	Promoting Materials																						
	Start of the Campaign																						
Research	Research Design																						
	Research																						

Copyright © Medvia Inc. All Rights Reserved. 23

一応の流れとしては、許可の関係が遅れているので少しずれるかもしれないが、研修をまずスタートし、ミャンマーの高官が来日を希望しているのも、もしも来日されたら講演を依頼しようと思っている。

12月初めに実証事業現金交付を利用して、とりあえず1ヶ月の間に200名ぐらい実施する計画で、その成果を含めて来年の1月初めの学会で報告会をやらうと考えている。

従って、8月初旬に関係者の同意を得るために藤原が現地に行き、局長の下ぐらいの人たちと会い、一応LOIを交わし、私自身は12月の交付のときと学会のときにミャンマーに行こうと思っている。



## 設置場所： Central Women's Hospital

- Central Women Hospitalがパイロット事業のサイトとなる。



・800床の女性専門の政府系病院  
 ・産婦人科を専門としており、患者の多くが妊婦である  
 ・すでに、年間2500名の子宮がん検診を行うなど、検診向きの機関である

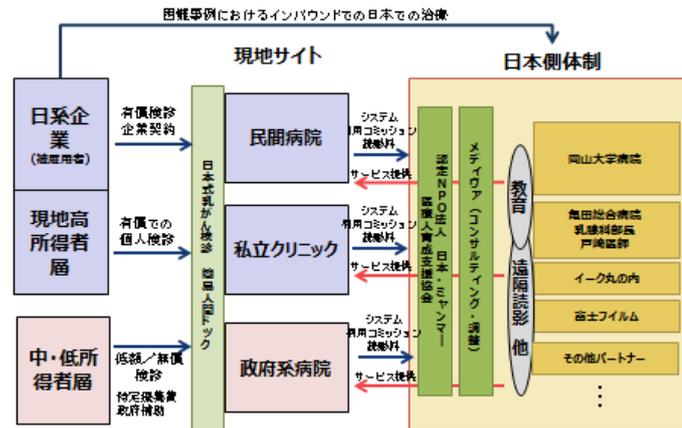
Copyright © Mediva, Inc. All Rights Reserved.

24

当然、F社等も来るが、Central Woman's Hospital を設置したり、運営したり、当社の人間も今年の12月は、現地に行くというような流れでやっていく予定である。



## 中期的な実証事業スキーム図（案）



Copyright © Mediva, Inc. All Rights Reserved.

25

(了)

(文責：日本経済調査協議会医療産業モデル研究委員会事務局)